



大梅

DAIBAI

大梅拈華山圓通正法寺

山主挨拶

正法寺 山主 盛田 正孝

記録的な猛暑が過ぎて少しは涼ぎやすくなりましたが、皆様には御健勝の事と存じます。平素は、正法寺の為に尊いお心遣いを頂き、只々有難く心より御礼申し上げます。

当僧堂も修行僧が大勢の時もあれば少数の時もありますが、堂則に従い臨機応変に行っております。何卒暖かき御心にて見守り頂きたく、お願い申し上げます。

私が学生の頃、仏教学者の紀野一義先生の講演会にて「静寂」の素晴らしさを語られ、「禅は沈黙の世界である」との一言が印象に残りました。今の世の中、テレビ・ラジオばかりでなく、町中が騒音で溢れておりま



す。まるで「音がしない時間」を忘れてしまった如くです。この沈黙という時間が無くなって行く事にもっと注意が必要です。

この沈黙とは騒音が止んだ時のことではなく「沈黙と言う世界がある」と言う事です。そして、そこから真実語が生まれてくることの大切さです。それに対して今の言葉は騒音語に近く、同じ様な言葉、文言を同じような口調で語る。誰が話しても同じ様なものに見えます。人間の言葉とはそういうものではないはずです。その人でなければ語れない言葉や話し方があるはずです。禅の古則に参じて思う事は、先人達が禅の沈黙の世界に参じ、真実なるものを体得し、借りものでない真実語を語り残されていると言う事です。この事を心に置いて修行してまいります。

宜しくお願い申し上げます。

御挨拶

正法寺末寺護持会会長
願成寺住職 芳川 春彦

残暑お見舞い申し上げます。

正法寺だより「大梅」も第19号の発刊となりました。

本年も6月の開山忌に併せ、末寺護持会総会を御本寺様を会場にして開催致しました。

昨年は大本山總持寺大遠忌の年であり、4月の總持寺正當法要では故成田芳髓禪師(正法寺55世)の二十七回忌法要が御親香、前日には副貫首の盛田山主老師がお勤めということで、当山からも末寺を中心に団参を募り随喜させて頂いた次第です。

そして、正法寺月例法話会も大変好評で、その都度多くの皆様がお出でになり、法堂で法話に耳を傾けていらっしゃいます。

また、秋には第3回目となる姫神コンサートを行う予定で、既に前売り券はほぼ完売となっております。正法寺ではこれから、一般者参加型の行事に積極的に取り組まれ、開かれた地方僧堂に力を注いでまいります。

この「大梅」をご覧の皆様には、常日頃より正法寺ご支援に沢山のご厚情をお寄せ戴き、本当に感謝申し上げます。今後、ますます少子化による安居者の減少など、僧堂運営も厳しいものが予測されますので、皆様方の更なるご理解とご協力の程をお願い申し上げます。発刊の御挨拶とさせていただきます。



維那寮より

正法寺専門僧堂では、現在1名の安居者を迎え、毎日の修行に励んでおります。昨年の今頃は、10名ほどの安居者が修行に励んでおりましたが、それに比べますと非常に寂しく感じます。ですが反対に、一人の修行僧への目の向け方は、これまで以上に重点的になり修行者と役寮のコミュニケーションが非常に密になっていくのも事実です。夏安居は、一人の修行僧ではありませんが、冬安居には数名の上山を予定しており、再び活気のある正法寺の修行が戻ってくることを期待しております。

地方僧堂も安居者の減少の影響を大きく受けてはおりますが、盛田山主老師、春日後堂老師のもと、行持綿密をモットーに維那寮として修行僧の生活を支えて参りたいと思います。

さて、正法寺の年分行持として6月13日、14日、開山忌を厳修いたしました。開山禅師様のご遺徳を偲び、法灯を継承してきた先師方の歩みに思いを馳せながら、山内、末寺御寺院様、その他随喜御寺院様、一同心を合わせて勤めさせていただきます。ご臨席の皆様と共に修行の原点を見つめなおす毎年の大切な行持であります。

また、7月27日(毎年7月の最終日曜)に大施食会を厳修いたしました。この時に檀信徒の皆様方の各家先祖代々

の供養、年回忌精霊の供養も勤め、併せて有縁無縁の精霊に供養をささげました。三界万霊、ご縁の有無を超え、広くあらゆる命に祈りを捧げる行持であり、これは私たち、そして檀信徒の皆様方にとっても深い学びとなります。今年の夏も酷暑でありましたが、施食会の準備から当日の法要に至るまで、役寮、大衆それぞれが自らの勤めを尽くして、共に汗を流しながら供養の心を形にできたと思います。この大施食会の行持が年間の行持の中で、いちばん檀信徒の皆様が参列される行持であり、供養を通して人と人との温かな繋がりを感じさせてくれる行持であると思っています。

正法寺の修行は、もちろん晩天にはじまり、夜坐に終わる一日一日を大切にしておりますが、法要や供養を、修行僧のみならず、末寺御寺院、元安居者と共に厳修することで、修行中から大法要の経験を積むことが出来ることも特徴のひとつです。法要の運営自体が随喜御寺院だけでなく修行僧だけでもなく、共に協力し合いながら大きな法要を体験できることは、師寮寺に戻ってからの大きな糧となることと思います。

秋を迎えますと新たな修行僧を迎え、臘八摂心、寒行托鉢と厳しい修行を迎えますが、大衆、役寮、一味同心して精進してまいりたいと思います。

安居者募集

正法寺専門僧堂では、安居者を募集しております。少子化が進む現代において、盛田正孝山主の考える僧侶教育を実践するべく、元大本山永平寺維那を務めた春日和光後堂をはじめ、現在は13名の役寮が従事し修行僧の育成に励んでおります。四九日においても晩天を欠かさずおこなう山風のなかで、維那和尚による法要進退、典座和尚による精進料理、特派布教師による布教の心得、特派梅花講師による梅花流講義のきめ細やかな指導により、多岐にわたる経験を積むことができるのが正法寺専門僧堂の特徴です。

僧堂の在り方が問われる今、お弟子様の修行の場として、正法寺専門僧堂をご案内いただければ幸いです。安居募集期間は、春と秋の解間期間となりますが、制中期間においてもお受けすることが出来ます。その際は、ご相談ください。

また、参禅の経験を長く積まれた方で、本来の修行を経験してみたい一般の方の修行も募集しております。ご本人の希望をお聞きしながら、期間や内容を決めることができますので、修行体験をご希望の方はご連絡ください。ただし、修行には、参禅道場からのご推薦をいただいております。申込みとなります。

正法寺専門僧堂は年間2期間の開旦過を設け、弘法利生を志す安居者を募集しております。

夏安居開旦過 1月20日～3月31日 / 冬安居開旦過 7月20日～9月30日

《掛搭資格》

*曹洞宗の僧籍簿に登録されている者であって中学校卒業以上の者。

本山僧堂への安居修行後、更なる坐禅修行、参究・実践を積みたい方。諸事情により、本山僧堂への安居が難しい方も御相談下さい。

※正法寺専門僧堂堂則より引用

僧堂安居を希望される方は、「正法寺専門僧堂 監事寮」までお問い合わせ下さい。監事寮より掛搭志願資料をお送り致します。

正法寺専門僧堂 監事寮

Tel. 0197-26-4041(代) / Fax. 0197-26-4107(代) / Url. shoboji.net/professional_sodo/

受付時間 9:00～17:00 (11月～3月は16:00まで) 無休

山門行持

【令和7年】

▼3月17日(月)

・解制土地堂念誦
導師 松森弘隆 単頭

▼3月18日(火)

・解制人事行礼、圓鏡調印式

▼4月1日(火)

・高橋哲秋 老師 上山
正法寺専門僧堂堂監就任

▼4月8日(火)

・釈尊降誕会
導師 春日和光 後堂

▼5月1日(木) ～ 11日(日)

・柴田翔展覽会
於・瑞鳳閣、龍虎の間

▼5月30日(金)

・洞龍会物故者追恩法要
導師 盛田正孝 山主

▼5月31日(土)

・守時タツミピアノコンサート
於・法堂

▼6月1日(日)

・第1回月例法話会
海野義範 布教師

▼6月13日(金)

・正法寺末寺護持会総会

・總持二祖國師光伴

当山開祖無底良韶禪師

速夜献湯諷經

焼香師宮城県長谷寺

住職 鈴木義隆 老師

▼6月14日(土)

・總持二祖國師光伴

当山開祖無底良韶禪師

正当献飯諷經

導師 盛田正孝 山主

▼6月18日(水)

・正法寺古文書調査
曹洞宗総合研究センター
協力・えさし郷土文化館

▼6月27日(金)

・講師 松木昂龍師 乞暇

▼7月6日(日)

・第2回月例法話会
東北管区教化センター布教師
福島県長照寺

住職 楠恭信 老師

▼7月27日(日)

・山門大施食会法要
導師 盛田正孝 山主

▼9月7日(日)

・第3回月例法話会
東北管区教化センター布教師
青森県儒童寺

住職 浅山賢正 老師

『釈尊降誕会』

4月8日(火)、春日和光後堂が導師を勤め『釈尊降誕会』を厳修致しました。法要中は須弥壇上に安置した花御堂内のお釈迦様に甘茶をかけて、ご生誕をお祝いしました。法要後は法堂露地に移した誕生仏に参詣の方々が次々に甘茶をかけられ、お釈迦様が生まれにられたことを祝福しました。



『洞龍会物故者追恩法要』

5月30日(金)、洞龍会(正法寺54世石橋洞龍和尚が山主の時代に所縁ある方々の会)の会員20名が拝登されました。盛田正孝山主が導師を勤め、『洞龍会会員物故者追恩法要』を厳修致しました。法要に随喜した20名の洞龍会会員が同会の物故者を追悼。盛田山主の挨拶の後、歴住墓において石橋洞龍禪師を、亡僧墓では梅岳素行尼を、それぞれ墓参され、詣塔諷經を営まれました。



『開山忌』

6月13日(金)、正法寺直末寺院参集のもと、宮城県長谷寺住職・鈴木義隆老師が焼香師を勤め、『正法寺開祖無底良韶禪師献湯諷經』を厳修致しました。続いて、北海道白麟寺主催「正法寺参拝団」の総諷經が厳修され、盛田正孝山主が導師を勤めました。

翌14日(土)、朝課罷に献粥諷經を行い、正當献飯諷經を盛田正孝山主が導師を勤め、末寺一同で開山禪師のご遺徳を偲びました。



『孟蘭盆会山門大施食会法要』

7月27日(旦)、『孟蘭盆会山門大施食会法要』が執り行われました。檀信徒各家のご先祖のみならず、初盆や年回供養の精霊も合わせて供養致しました。法要前の法話では、春日和光後堂が『法句經』を引用しながら易しく仏教の大切なところを話されました。



月例法話会

本年も恒例となりました『月例法話会』を開催月の第1日曜日に開催しております。今年から、新たな趣向として、曹洞宗東北管区教化センターの協力により、教化センター布教師の方からもお話をいただくこととなりました。

かつて、東北の本山といわれた正法寺から、お釈迦様の教え、禅の教えを分かりやすく伝えられるように全4回の法話会を開催しております。第1回の6月1日の海野義範布教師を皮切りに、第2回の7月6日は、教化センター布教師の楠恭信老師（福島県・長照寺住職）が法話を担当いたしました。第3回の9月7日（日）には、教化センター布教師の浅山賢正老師（青森県・儒童寺住職）が担当され、全ての回に沢山のご来場をいただきました。

《今後の開催予定》

第4回 10月5日（日）

法話者 盛田 正孝 山主

※定員につき受付終了



国際ロータリークラブ

3月28日（金）、国際ロータリー第2520地区主催で、法話と坐禅の実践体験セミナーが開催され26名の会員の皆さまが参加されました。海野義範布教師が講師を担当し「職業倫理と禅」という演題の講演を「慈愛、至誠、和合」の3つのキーワードを用いて企業経営の処世術を禅の教えと照らし合わせて説かれました。



NPO法人岩手未来機構

5月1日（木）からゴールデンウィーク期間中、岩手未来機構・いわてアートプロジェクト様が、庫裡瑞鳳閣ならびに龍虎の間を会場にして、写真家の柴田祥氏と、作家の西崎憲氏による写真展覧会を開催されました。津軽の景色を撮り続ける柴田氏と人の命を感じる言葉を紡ぐ西崎氏のコラボレーションは、まさに正法寺が発信する光を観るものと共感するものでありました。

期間中は、ご来場者も立ち止まり、じっくりと写真と言葉を噛みしめるように観覧されていきました。



愛知県曹洞宗青年会 研修会

5月13日(火)、愛知県第一宗務所曹洞宗青年会の皆様が正法寺研修会を開催されました。

はじめに、青年会会長の長坂秀弘老師(愛知県・常楽寺住職)が導師を勤め、拝登諷經を執り行い、記念

撮影。

午後は、法堂東の間に於いて盛田正孝山主が講義を行いました。



守時タツミ・コンサート

5月31日(土)、守時タツミ氏のピアノコンサート「景色の見える音楽会」が正法寺法堂に於いて開催されました。今年で5回目となる守時タツミさんのピアノ演奏には、美しい音色の中に、心のやすらぎを感じ、遠い昔を回顧し、往時を懐かしむ旋律が流れています。

今年も沢山のご来

場があり、正法寺法堂の中で、皆さんが守時さんの素敵な演奏に酔いしれておりました。



緩緩会

6月2日(月) 3日(火)の日程で、緩緩会主催の研修会が正法寺を会場にして開催されました。

6月2日午

後、法堂において、緩緩会会長大野徹史老師(茨城県・鏡徳寺住職)が導師を勤め、開講式を兼ねての「拝登諷經」を厳修されました。法要の後、盛田正孝山主が挨拶を致しました。午後の講義では、同会が講師として招いた竹内弘道老師(岩手県・善龍寺住職)による講義。薬石を挟んで夜坐一炷。翌日は晴天坐禅、および春日和光後堂が御代香を勤める朝課に随喜されました。この日の講義は、高橋哲秋堂監が講師を務め、正法寺の歴史を紐解きました。

緩緩会は、大乘寺専門僧堂の堂長であった東隆眞老師が御遷化の後、当時の役寮と安居者が集い、坐禅の実践や法話の発表などを通じて、参学研鑽する勉強会で、現在は大乗寺関係者に限らず、希望する方を僧俗問わずに広く受け入れておられます。



水沢諸流華道会



6月18日(水)、水沢諸流華道会の会員12名が正法寺法堂に会し、日頃、華道の稽古で使用する花ばさみや生花に感謝する「献花諷經」を行いました。

お盆に並べた花ばさみを祭壇に供え、花瓶に生花を献花した後、松森弘隆単頭が導師を勤め、花ばさみとお花を供養致しました。

山形県第一宗務所寺族 梅花会

7月2日(水)、山形県第一宗務所管内寺族梅花会の皆様が研修の一環で正法寺を参拝され、法堂において梅花奉詠をされました。



岩手県曹洞宗青年会 緑陰禅の集い

7月5日(土)、岩手県曹洞宗青年会主催『第59回みちのく緑陰禅の集い』が開催されました。一般参禅者を広く募集し、7名の方が参加されました。

はじめに岩曹青会長の西川友法老師(岩手県・凌雲寺住職)が導師を勤め「開講諷經」を厳修されました。その後、一般参加者、青年会会員と正法寺役寮も共に坐禅一炷。中食後は、正法寺専門僧堂松森弘隆單頭老師の法話を拝聴されました。その後、二炷目の坐禅を修行され、清々しい緑陰禅の集いとなりました。



宮城県曹洞宗青年会 研修会

7月9日(水)、宮城県曹洞宗青年会『令和7年度第1回研修会』が開催されました。はじめに、宮曹青会長の牧野隆信老師(宮城県・高林寺住職)が導師を勤め拝登諷經を執り行い、記念撮影。諸堂拝観の後、僧堂と法堂内の仏殿に分かれて禺中坐禅一炷。午後は、盛田正孝山主が「青年僧侶の役割」と題して講義をされました。講義中は、研修会に参加した僧侶約40名が熱心にメモを取りながら聴講されておりました。講義が終わり、修行時代の初心に立ち返ろうと、作務衣に着替えて報恩作務に汗を流されました。庫裡や法堂、開山堂へ繋がる階段はみるうちに輝きを増しました。

登米曹洞宗青年会

7月20日(日)、登米曹洞宗青年会(宮城県)が「こども坐禅会」を開催されました。保護者を含めて9名の参加がありました。暑さの中、熱中症対策を実施しての坐禅。時折、僧堂内を吹き抜ける風の中で、静寂なひとときを過ごされ、坐禅が終わった後の子供達の表情は、どこか自信に満ちあふれている様子でした。



拝登諷経・御祈禱・梅花奉詠

7月22日(火)、宮城県自照院住職・錦織泰禪老師を団長に自照院観音講・普賢講・梅花講の講員の方々約60名が正法寺を参詣されました。

はじめに法堂において錦織住職が導師を勤め、「拝登諷経」を厳修。続いて、盛田正孝山主が導師を勤め、仏殿に於いて「祈禱諷経」を厳修し、ご列席の皆様が身体健全と心願成就をお祈り致しました。

読経中の焼香に於いては、盛田山主が講員お一人お一人に理趣分の功德を授けられました。更に法要の最後には、法堂大間にて自照院梅花講様による梅花奉詠が行われました。報恩の調べが法堂内に響き渡りました。



坐禅体験

7月24日(木)、岩手県花巻市の花北地区コミュニティ協議会の一行22名が、坐禅体験をするために正法寺を参詣されました。はじめに海野義範布教師による諸堂の説明を聞きながら拝観をされ、その後、法堂東の間において、ゆつたりと坐禅体験をされました。

7月26日(土)には、岩手大学の外国人留学生35名がフィールドツアーの一環で坐禅体験をされました。参禅者のほとんどが日本語の通じない学生でありましたが、海野義範布教師が諸堂拝観と坐禅体験を英語で案内致しました。

拝観の時から、様々な質問があり、日本文化に触れる大きな機会であったことが伺われます。坐禅体験も全ての学生が初めてであり、脚の痛みに耐えながら、自分自身を見つめる時間を味わった様子です。

今回の募集も、キャンセル待ちになったほどだそうです。日本文化を知る絶好のチャンスであることが伺えます。



新役寮紹介

堂監 高橋 哲秋

(岩手県 第219番 遠應寺 住職)



役寮乞暇

青森県 第104番
海傳寺 住職 松木 昂龍師

平成30年10月11日に正法寺専門僧
堂講師として就任以来、修行僧と
寝起きを共にし、指導役を担
うた松木昂龍師が、6月27日
に乞暇されました。



上山者紹介

特殊安居

▼令和7年6月9日(月)



宮城県 第193番 圓幢院 徒弟
永浜 賢道兄

送行者紹介

▼令和7年4月19日(土)

秋田県 第141番
香川寺 徒弟
中川 成宗兄



▼令和7年5月19日(月)

宮城県 第401番
少林寺 徒弟
千葉 隆平兄



特殊安居

▼令和7年5月31日(土)

山形県 第385番
真福寺 住職
伊藤 嵩博兄



宮城県 第418番
光明寺 徒弟
佐々木 大賢兄



送行にあたり

秋田県 第141番

香川寺 徒弟 中川 成宗

「修行の仕方を選び始めただけである」
安居された方々が口を揃えて仰っていた言葉は、まさにその通りであります。振り返りますと一念発起し、正法寺専門僧堂の木版を打って2年前、やみくもに修行々とトゲを出していた自分は「貪・瞋・癡」を捨て、一から僧堂という大海の荒波の中で心を落ち着かせ「調身・調息・調心」から全てが働くのだという事を身をもって感じ取るまで時間を要しました。全ての行動・言動に当然のことながら意味があり、「任にあたって全うする」責任があるのだと。それを実践し他に「喜・憂する事なく進まねばならないと、本当に「修行は自分持ち」、この言葉を改めて肝に命じました。これからお檀家様と和合して行く為にも一日一日を大切に、日々修行の始りである事を深く自覚し、更なる気持ちで弁道精進して参ります。心の底から学びを感じ受けとめる事が出来ました。

「六和敬の教え」を素直に実践し「乳水の如く和合」出来ますように過ごして行きます。正法寺専門僧堂で紡いだ御縁を大切に致します。関係各位の皆様方、誠にありがとうございました。

宮城県 第401番

少林寺 徒弟 千葉 隆平

正法寺へ上山し、早いもので2年が経ちました。今でも上山時に安下処を出て、山門をくぐり、日本一と謳われる茅葺き屋根に圧倒され、今までの人生で感じたことのない緊張感の中、香積台の前で木版を三打した記憶がつい数日前のことのように思い出されます。

この2年間、私の中で僧侶としてどう生きていくかを真剣に考え、自己と向き合うことができたと思います。上山直後は、法式進退はおろか、衣の着方さえも手間取っており、正に右も左もわからない状態でしたが、古参和尚さんや役寮さんからの御指導をいただき、日を追うごとに僧堂での生活にも慣れることができました。

そんな安居生活に慣れてきた頃、山主老師の学科に於いて僧侶の使命や修行について幾度となく学ばせていただきました。

その中で、修行は円であり、始まりも終わりもない。だから修証一平等なのであり、行住坐臥すべてが修行になるのだと理解し、安居生活の意義を実感することができました。

この度、送行することになりましたが正法寺専門僧堂での安居修行を自身の僧侶としての礎として、初心を忘れず弁道精進してまいります。また安居中支えていただきました山内の皆様に深く感謝申し上げます。

宮城県 第418番

光明寺 徒弟 佐々木 大賢

私は令和5年の冬、正法寺専門僧堂に上山致しました。人見知りや激しく、人との会話やコミュニケーションが苦手な私にとって、集団生活は何よりも辛いものでした。何もかもが嫌になり、全部投げ出して逃げてしまいたいという思いに何度も駆られました。しかしその度に、「自分は何をしに、何の為に正法寺専門僧堂へ上山したのか」、「自分がここに居る意味を思い出し心を強く持つ」と己を励まし、もう現実から目を背けることはしてはいけなさと戒め、日々精進していました。

山主老師をはじめ、役寮和尚さん、共に安居し修行した雲水の皆さん、師匠である伊藤守弘老師、家族を含め、私は多くの人々に支えられておりました。

正法寺専門僧堂に安居することが出来たこと、盛田正孝山主老師の下で多くのことを学ばせていただいたこと、このことは、私にとってかけがえのない経験でした。

送行しても、この縁は切れることなく、これからの僧侶としての人生における「燈火」になると信じています。ありがとうございました。



- 正法寺発展興隆奉賛会協賛者御芳名 -
(令和6年 12月4日 ~ 令和7年 5月31日まで受付分, 敬称略)

青森 第 四四番	高澤寺	岩手 第二四九番	光明寺	福島 第一八一番	安養寺
青森 第 四五番	金龍寺	岩手 第二六三番	瑞雲寺	福島 第二〇九番	吉祥院
青森 第 六六番	大慈寺	岩手 第二八八番	長福寺	福島 第二三五番	長泉寺
青森 第 七九番	法光寺	岩手	(有) フォトアイ	福島 第二二六番	常降寺
青森 第 九三番	儒童寺	岩手	熊谷齊	福島 第二二七番	龍臺寺
青森 第 九七番	源福寺	宮城 第一〇番	瀧澤寺	福島 第二五四番	同慶寺
青森 第 一八三番	大乘寺	宮城 第一二番	松源寺	山形 第一八一番	金勝寺
青森 第 一八五番	観音寺	宮城 第一三番	福聚院	山形 第一六二番	同慶寺
青森 第 一八八番	興雲寺	宮城 第二七番	国分尼寺	山形 第一二五番	寶園寺
秋田 第 六番	妙覺寺	宮城 第二九番	秀林寺	山形 第一二三八番	西来院
秋田 第 一〇番	歡喜寺	宮城 第三〇番	壽德寺	山形 第二六八番	慶昌寺
秋田 第 一九番	関信寺	宮城 第四三番	玉川寺	山形 第三四一八番	前雲院
秋田 第 二二番	源正寺	宮城 第四九番	化度寺	山形 第三五二九番	了願寺
秋田 第 六一番	鷲林寺	宮城 第五六番	大満寺	山形 第三五四七番	大洞寺
秋田 第 六八番	長泉寺	宮城 第六七番	同慶寺	山形 第三七三四番	東光寺
秋田 第 七六番	蔵堅寺	宮城 第七三番	円満寺	栃木 第五七番	満福寺
秋田 第 七七番	永泉寺	宮城 第八三番	向泉寺	埼玉	松野 博道
秋田 第 二〇四番	曹溪寺	宮城 第九四番	秀薊齋	東京 第三八六番	龍昌寺
秋田 第三〇二番	天昌寺	宮城 第一〇一番	慶雲院	東京	兼子 正勝
秋田 第三五三番	安養寺	宮城 第一七六番	泉永寺	静岡 第二四四番	成願寺
岩手 第 一 番	天昌寺	宮城 第二五九番	真證寺		
岩手 第 一三番	長善寺	宮城 第二六六番	長練寺		
岩手 第 一六番	廣慈寺	宮城 第二七二番	功岳寺		
岩手 第 二八番	聖福寺	宮城 第二七八番	津龍院		
岩手 第 四二番	長岩寺	宮城 第二八四番	耕徳院		
岩手 第 四九番	廣澤寺	宮城 第二八四番	西雲寺		
岩手 第 五八番	長福寺	宮城 第三〇五番	金藏寺		
岩手 第 七〇番	桂林寺	宮城 第三一一番	照源寺		
岩手 第一〇二番	光明寺	宮城 第三三四番	光嚴寺		
岩手 第一〇四番	廣徳寺	宮城 第三三九番	天雄寺		
岩手 第一一六番	西念寺	宮城 第三四四番	龍澤寺		
岩手 第一二一番	守林寺	宮城 第三五九番	保昌寺		
岩手 第一四三番	鳳凰寺	宮城 第三六〇番	林昌院		
岩手 第一四五番	見性寺	宮城 第三九八番	宝鏡寺		
岩手 第一五二番	東松寺	宮城 第四二八番	大光寺		
岩手 第一五四番	梅泉寺	宮城 第四二九番	照明寺		
岩手 第一五六番	龍泉寺	宮城 第四四九番	全慶寺		
岩手 第一五八番	順成寺	宮城 第四五五番	瑞満寺		
岩手 第一六四番	瑞昌寺	宮城	高橋 恵美子		
岩手 第一八六番	大光寺	福島 第一五番	東泉寺		
岩手 第一九五番	安養寺	福島 第八〇番	長栄寺		
岩手 第一九六番	建高寺	福島 第八六番	安養寺		
岩手 第二二六番	長林寺	福島 第一九番	長泉寺		
岩手 第二二七番	安養寺	福島 第一二一番	長泉寺		
岩手 第二三一番	盛岩寺	福島 第一三九番	徳成寺		

令和7年度 正法寺発展興隆奉賛会協賛金予算書

1. 収入の部			
科 目	予算額(円)	前年度予算額(円)	備 考
1. 会費	1,500,000	1,500,000	150カ寺(名)
2. 協賛金	3,000,000	3,000,000	
3. 繰越金	1,777,528	1,916,090	
4. 雑収入	1,000	1,000	
合 計	6,278,528	6,417,090	

2. 支出の部			
科 目	予算額(円)	前年度予算額(円)	備 考
1. 常什助成金	3,000,000	3,000,000	
2. 事務費	50,000	50,000	
3. 営繕費	2,500,000	2,500,000	
4. 予備費	728,528	867,090	
合 計	6,278,528	6,417,090	

令和6年度 正法寺発展興隆奉賛会協賛金決算書

1. 収入の部			
科目	予算額(円)	決算額(円)	備考
1. 会費	1,500,000	2,240,000	224カ寺(名)
2. 協賛金	3,000,000	4,611,000	
3. 繰越金	1,916,090	1,916,090	
4. 雑収入	1,000	1,720	利子
合計	6,417,090	①8,768,810	

2. 支出の部			
科目	予算額(円)	決算額(円)	備考
1. 常什助成金	3,000,000	4,000,000	
2. 事務費	50,000	134,582	印字サービス60,220円含む
3. 営繕費	2,500,000	2,856,700	衆聖庫裏渡り廊下改修
4. 予備費	867,090	0	
合計	6,417,090	②6,991,282	

3. 差引残額 ①－②＝1,777,528 円(次年度繰越額)			

発展興隆奉賛会事務局より

正法寺発展興隆奉賛会の会計年度は6月1日から翌年5月31日までとなっております。令和6年12月4日から令和7年5月31日までに会費、協賛金を納入賜りました御寺院様、個人・企業の皆様のお芳名並びに令和6年度決算書と令和7年度予算書を上記に掲載しました。

これから会費、協賛金の納入をお
考えいただいている皆様には同封の
郵便振替払込用紙に合計金額と住所、
寺籍番号、寺院名（氏名）、電話番
号をご記入の上、納入下さいますよ
うお願い申し上げます。

なお、郵便振替払込領収書を本会の領収書に替えさせていただきますことをご了承願います。

正法寺だより「大梅」第19号

令和7年 8月20日 発行

發行 / 大梅拈華山 圓通正法寺

〒023-0101 岩手県奥州市水沢黒石町字正法寺129

WEB / shoboji.net

問合せ / 0197-26-4041

本誌掲載の写真・図版・記事等の無断複製・転載を禁じます。